

視察報告書を提出：個人・会派行政視察(2016.04.15-16)

旧伊藤伝右衛門邸(現、飯塚市所有) 見学 4月16日

記：町田市議会議員 吉田つとむ 保守連合

伊藤伝右衛門は、筑豊の5大炭鉱王の一人。貝島、麻生（セメントに転身、経営者は後の元総理）、安川（電気＝モートル→ロボット大手）に並ぶ。父から一部受け継ぐが、実質、自分が起こした企業と言える。小炭鉱から、拡大した炭鉱が優良炭鉱で大手に伸び上がる。炭鉱機械製造、地場銀行経営、衆議院議員も務めた政治家で、業界の安定、遠賀川の治水にも貢献。炭鉱経営を本格的に充実。

娘婿等が相次ぎ事故や病気で亡くなる。石炭産業の衰退で、所有した大正炭鉱は閉鎖し、機械部門は他の大手にわたる。



伊藤伝右衛門は、飯塚に本邸、福岡や別府の別邸を持つが、福岡は2度も焼却して無くなり、別府の別邸は軍に手渡す。

その本邸は日本家屋の豪華な材料を使って建築され、調度品も格調高い品々であふれている。広大な日本庭園は国の名勝に指定されている。建物は、飯塚市有形文化財に指定。



伊藤伝右衛門は本妻が亡くなった後、結婚するが、その相手は大正時代の三大美人の一人と称された、柳原燐子（白蓮）であり、そのことで、今に優雅な建物と文物を残す結果となっています。

妻、白蓮は、10年後に駆け落ちをし、新聞沙汰となる事件となったが、伊藤は、それを最終的に咎めることを排し、愛の文化を残したとも言える。一般には粗野と思われる伊藤伝右衛門の現代に通じる生き方を示しています。

それらが、相まって、伊藤伝右衛門像を形成している。中央と地方における評価の違いがあり、悪しきメディア情報が触れ回り過ぎたことになります。



伊藤伝右衛門は、地元で女学校を立て県に寄付し、伊藤育英会を作っています。当地を訪ねると、白蓮は学校経営をしたかったことが語られます。その説明によると、私学運営をしたかったということであり、そのことを伊藤伝右衛門に頼りたかったのですが、それは果たせない結果になっています。

百連の元来の交友関係を考えるとその方が自然ですが、県立となっても、その文才を生かした貢献の道はあったらと思います。むしろ、そうした道を歩むことで、多くの女学生

が慕って集まる可能性があり、文化発展に貢献できと思いますが。残念です。みやびやかな世界から、筑豊と言う地域に嫁いだことがなかなかなじめなかったのでしょう。



その後、伊藤伝右衛門の時代から次世代に至り、大正炭鉱の閉鎖に伴う争議がありますが、そこに戦後思想史に多大な影響を与えた谷川雁、森崎和江らのサークル村が大正炭鉱の福岡県中間市に出現したのは、単に偶然ではなく、その先鋭的な文化を取り入れる文化性の伝承だと考えられます。



さらに、伊藤伝右衛門の遺産は飯塚市の所有となったこの館を残すのみになっていますが、文化的には、この筑豊が誇る炭鉱画家の山本作兵衛の作品も収蔵されています。この大きな館の存在よりも、このつつましかさや中にもダイナミックな労働や、その生活を描いた絵画作品の姿を通じて、筑豊が生み出した文化だと感じました。

あわせて、先に書いたサークル村で、労働歌作詞家の森田ヤエ子さんが鍛えられ、その世界に残る労働の名歌詞を残したことは、伊藤伝右衛門が持つ炭鉱の栄枯盛衰と対比しても、劣るものはないと思います。そのことは、きらびやかな一族をなす麻生家がますます興隆を極める時、森田ヤエ子さんの生活そのものの雰囲気のひっそりとした佇まいが心を安らがせるものです。



ただし、こうした対比はこの施設見学からは伝わりにくく、現代においてそのことを思い浮かべるのは、学窓の人以外にはあまりないでしょう。